

## 蔽布の成聖祈祷

※(司祭は、エビタラヒリとフェロンを着けて、至聖所を出で、天門前の祭台上に用意された聖水及び蔽布の前に立ち、炉儀して、始める。)

君や、祝讃せよ。

我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。  
アミン。

### 常套の始め

我等の神や光荣は爾に帰す、光荣は爾に帰す。  
天の王慰むる者や、真実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、萬善の寶藏なる者、生命を賜うの主や、来たりて我等の中に居り、我等を諸の穢より潔くせよ、至善者や我等の靈を救い給え。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。(三次)

光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の愆を赦せ、聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。

主憐めよ。(三次)

光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は来たり、爾の旨は天に行わるるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に與え給え、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導かず、猶我等を凶悪より救い給え。

蓋国と権能と光荣は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。

アミン。

主憐めよ(三次)。

光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。  
来たれ、我等の王神に叩拝せん。

来たれ、ハリストス我等の王神に叩拝俯伏せん。  
来たれ、ハリストス我等の王と神の前に叩拝俯伏せん。

## 第九十二聖詠

主は王たり、彼は威嚴を衣たり、主は能力を衣、又之を帯にせり、故に世界は堅固にして動かざらん。爾の宝座は古より堅く立ち、爾は世世の前より在せり。諸川聲を騰げ、主よ、諸川其聲を騰げ、諸川其波を騰ぐ。然れども主が最高きに於いて強きは、多くの水の聲に勝り、海の強き浪に勝れり。爾の啓示は誠に正し。主よ、聖徳は爾の家に属して永遠に至らん。

光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や光榮は爾に帰す。（三次）

主に祈らん。

主憐めよ。

輔詠

## 第一祝文

司

主神父全能者や、爾はシナイ山に於いて、爾の僕律法者モイセイに会幕及び爾の聖所に用いる種々の飾物、蔽物、床布等を造るを命ぜし者なり、切に爾に祈る、其時是以降福を賜い、アアロンの手を以て聖にし、之を受け給いし如く、今も爾の聖神と我等罪人の手を以て是に降福して成聖を賜い、以て爾の至愛の子、我等の主イイスス・ハリストスの宝座（及び奉献台）を包むに堪うる者と為るを致させ給え、

蓋凡の善き業と全き賜は皆爾上よりす、故に光榮を爾と爾の独生子と至聖至善にして生命を施す爾の神とに献ず、今も何時も世世に。

アミン。

衆人に平安。

爾の神にも。

爾等の首を主に屈めよ。

主爾に。

詠輔詠司詠

## 第二祝文

司 主よ、願わくは爾の耳を傾けて、我等当たらざる爾の諸僕の祈祷を聞き入れ、以て聖なる宝座及びハリストスの祭台に用いる為に備えられし此の蔽物を、萬事を聖にする爾の恩寵にて、聖水の灌がるるを以て祝福、成聖し給え。  
蓋我等の神よ、爾は凡の物を祝福、成聖する主なり、故に光栄を爾と爾の独生子と至聖至善にして生命を施す爾の神とに献ず、今も何時も世世に。  
詠 アミン。

※(次いで司祭、聖にする祭品に聖水を灌ぎて曰く。)

司 此の蔽物は、至聖なる聖神の恩寵と此の聖水の灌がるるを以て成聖せらる、父及び子及び聖神の名に依りてなり。(三次)  
詠 アミン。  
輔 睿智。(每次応答する)

司 至聖なる生神女や、我等を救い給え。  
詠 ヘルワイムより尊くセラフィムに並びなく栄え、貞操を破らずして神言を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。  
司 ハリストス神我等の恃や、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。  
詠 光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。主憐めよ(三次)。福を降せ。  
司 ハリストス我等の眞の神は、その至浄なる母、克肖捧神なる吾が諸神父、亜使徒日本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の祈祷に因りて、我等を憐み救わん、彼は善にして人を愛する主なればなり。  
詠 アミン。